

集团的活動や就業体験等を通して命の大切さを学ばせる体験活動  
山口県立高森高等学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：9学級
- 生徒数：347人
- 教員数：46人
- 活動の対象学年：1年生・117人  
2年生・112人

② 体験活動の観点からみた学校環境

- 本校が設置されている岩国市玖珂町、周東町は山口県東部の人口2万5千人の玖西盆地に位置し、JR岩徳線の他、国道2号線や山陽自動車道が通り、比較的交通の便に恵まれている地域である。
- 平成15年4月に高森みどり中学校を開校し、山口県初の併設型中高一貫教育を開始する。
- 今年度、高森みどり中学校第1期生が高森高等学校3年次生となり、平成21年3月卒業予定である。

③ 連絡先

- 〒742-0333  
岩国市玖珂町1253番地
- 電話：0827-82-3234
- FAX：0827-82-3247
- ホームページ：  
<http://www.takamori-h.ysn21.jp>
- 電子メール：  
takamori-h@ysn21.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 高森ピア・セミナーなど自然の中での集团的活動
  - ・ PAの手法を用いた体験学習を実施して、新入生の早期の融和を図るとともに、豊かな人間性や社会性の育成をめざす。
  - ・ 大自然の中で自分を見つめなおし、自然を通して「生命への畏敬」「他者への配慮」などの心を育成する。
- インターンシップ（1年）や東京キャリアアップツアー（2年）などの活動
  - ・ インターンシップや東京キャリアアップツアーを行うことにより、勤労観・職業観を育むとともに、人に対する「思いやり」や「いたわり」の気持ちに気付かせ、また、自分の命や他人の命の大切さについて考えさせる。
- ボランティアなどの社会奉仕活動
  - ・ 生徒の豊かな心や思いやりのある温かい心を育てるボランティア活動を、全校的な活動として継続的・計画的に実施するために「高森ボランティアチーム」を設置し、社会性や協調性を培うことをめざす。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 自然の中での集团的活動  
(学校行事41単位時間)
- 職業・就業に関わる体験活動  
(総合的な学習の時間24単位時間、学校行事12単位時間)
- ボランティアなどの社会奉仕活動  
(学校行事4単位時間)

## 1 活動に関する学校の全体計画

### ○ 活動のねらい

- 平成15年度に開校した併設の高森みどり中学校から第1期生が高森高等学校に入学した平成18年度より、集团的活動「高森ピア・セミナー」を1年次の年度当初に実施し、新入生の早期の融和と良好な人間関係の基盤の形成を図っている。

また、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、大自然のなかで、人や動物、植物などとふれあい、自然の摂理を体得するとともに、一つひとつの生命の重さ、不思議さを考えさせ、「生命への畏敬」「他者への配慮（思いやり）」などの心を育成することをめざしている。

- 中高一貫を踏まえたキャリア教育を推進するため、中学校1年次から、計画的なキャリア体験学習（職業・就業に関わる体験活動）を実施し、高校1年次において「インターンシップ」、高校2年次に「東京キャリアアップツアー（東京研修旅行）」を行い、勤労観・職業観を育むとともに、生産者・消費者などとの接触を通して、人に対する「思いやり」や「いたわり」の気持ちに気付かせ、また、介護体験や保育体験を通して、自分の命や他人の命の大切さについて考えさせている。
- 生徒の豊かな心や思いやりのある温かい心を育てるボランティア活動を、全校的な活動として継続的・計画的に実施するために「高森ボランティアチーム」を設置し、社会性や協調性を培うことをめざしている。

### ○ 全体の指導計画

活動の名称	実施学年	活動内容	教育課程上の位置付け	期間
高森ピア・セミナー	1年	・PA的内容 (TAP:[徳地アドベンチャープログラム]) ・スコアオリエンテーリング ・マウンテンバイク ・野外炊飯 ・学習会、キャリアガイダンスなど	学校行事	①4月22日 (2時間) ②4月30日 ～ 5月2日 (37時間) ③11月11日 (2時間)
インターンシップ	1年	・市内近郊及び周辺市町の病院、福祉施設、小学校、動物園などで就業体験	総合的な学習の時間	10月7～9日 (24時間)
東京キャリアアップツアー	2年	・東京都内の企業や大学(医・薬学部等)訪問	学校行事	10月7～10日 (12時間)
高森ボランティア活動	1, 2年	・地域一斉清掃作業	学校行事	3月13日 (4時間)

## 2 活動の実際

### ○ 事前指導

1年次生は、高森ピア・セミナーについては新入生オリエンテーション、事前の全体集会において、生徒部長・学年主任からピア・セミナーの意義や目的について指導した。また、学年の担任2人が事前に国立山口徳地青少年自然の家(山口市徳地船路668)にて研修を受け、復伝後、それぞれのHR(ホー ルム)において、各担任が指導した。その後、4月22日、国立山口徳地青少年自然の家の所員2人により、アイスブレーキングなどPA的な活動による人間関係

づくりの活動を行い、4月30日からの準備を行った。

インターンシップの実施については、総合的な学習の時間に業種を中心に11班に分かれ、それぞれ担当の教員から心構えなどの指導を受け（4時間）、前日には全体指導の中で生徒部長からマナー指導や、特に「命の大切さ、命を守る」を実感できる職場については他の職場以上に細心の注意を払うよう促した。

2年次生は東京キャリアアップツアーの訪問企業や大学の選定・検討のため、総合的な学習の時間に4～6人の23班に分かれ、2～3班に1人の教員がついて指導に当たった。

## ○ 活動の展開

### □高森ピア・セミナー

平成18年度から実施したこの高森ピア・セミナーは所期の目的を達成するとともに多くの成果を挙げてきたが、一方で様々な課題も現れてきた。そこで、今年度は以下のことに留意しながら実施した。

課題点	変更点
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習オリエンテーション           <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い期間の中で5教科全てを実施すると集中力に欠ける。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科・科目を英語・数学に限定し、集中して実施した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● MTBオリエンテーリング           <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーリングの難コースを一律にマウンテンバイクで実施させた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マウンテンバイクを使用しないオリエンテーリングを行った。また、難コース、易コースの選択を生徒各班に決定させ、作戦を立てさせた。</li> <li>○ マウンテンバイクの走行は別日に実施した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 規律と自律           <ul style="list-style-type: none"> <li>・PAの手法を取り入れた体験活動は生徒の自主性を重んじており、教師は「待ち」の姿勢を求められている。そうした中、生徒の「自由」は「放任」となりやすい。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 男女間の交友を含め、自らを律し、節度ある行動がとれるよう、事前によく指導するとともに、要所要所で指導を加えた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 命の大切さ・自然の恩恵の希薄           <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな物質文明社会の中で、「生命への畏敬」の念は想起しにくい。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前指導や授業の中でことあるごとに取り上げ、自然の中の我々であることを認識させた。</li> <li>○ 山中でのスコアオリエンテーリングにより、自然をより意識させた。</li> <li>○ 野外炊飯を実施し、「食」を通して命の大切さを学ばせた。</li> </ul>



事前指導[アイスブレーキング]



大自然の中で野外炊飯



ローエレメント

## □ インターンシップ



小学校で絵本づくり



消防署にて  
(命綱の結び方を学ぶ)



保育園にて

## □ 東京キャリアアップツアー



早稲田大学



日本大学



本所防災会館

## □ 高森ボランティア活動

平成18年度、多様な交流活動の一つとして、生徒の豊かな心や思いやりのある温かい心を育てるボランティア活動を、全校的な活動として継続的・計画的に実施するため、「高森ボランティアチーム」(現在、中・高で94名)を設置した。

地域から本校のボランティア活動の実績が認められ、多くの要請をいただき活動の機会も増加している。

また、市内介護体験、薬物乱用防止キャンペーンや市内近郊の病院ボランティアなど「生命に関わる」ボランティア活動へも積極的に参加している。



図書館祭りで古本を販売



献血推進キャンペーンでの  
献血クイズ



ボランティア掲示板

## ○ 事後指導

- ・ 高森ピア・セミナー

11月11日(火)、国立山口徳地青少年自然の家の所員2人による人間関係づくりの活動(2時間)を行うとともに、LHR(ロングホームルーム)で「振り返り」を行い、今後のクラス目標を決定した。

- ・ インターンシップ、東京キャリアアップツアー  
実施後にLHRで感想や反省、課題などを記入させた。命にかかわるさまざまな事業所や企業を訪問し、多くの感銘を得たようだ。自分の在り方生き方を考えるきっかけとなり、今後の進路選択に生かされるであろう。
- ・ 生徒の感想から（一部）

□高森ピア・セミナー

- ・ あっという間にピアセミナーが終わってしまった。
- ・ 1日目は違う中学校（併設中学校以外）から来た人たちとアイスブレイキングやオリエンテーリングで打ち解けることができた。
- ・ 2日目は違う班の人たちともいろいろ話もできたし、ローエLEMENTでは15人が本当によく協力できた。さらに夜の講演もとてもよかった。
- ・ 3日目は1，2日の活動で仲良くなった班員と薪割りや鍋で米を炊いた。初めてのことが多かったけど、協力して美味しいカレーができた。3日間で協力することの大切さが分かったので、これからの高校生活に活かしていきたい。

□インターンシップ

- ・ 心を閉ざしている生徒も中にいて、何もできない自分とその子の気持ちを考えると辛かった。（小学校）
- ・ 生きていくためには、命を犠牲にしなければならない。動物は他の動物の命を無駄にせず、残さず食べた。人間も見習わなければいけない。（動物園）
- ・ 幅広い将来性、無限の可能性を見せる小学生を見たとき、彼らを社会全体で大切に守っていかねばならないと感じた。（小学校）

□東京キャリアアップツアー

[企業訪問]

- ・ 消火器使用、地震、人工呼吸、AEDなどの体験ができてよかった。（防災会館）
- ・ 良かったというか怖かった。でも生きていくうえで知っていて損のあることではなく、むしろ得なので、身をもって体験できてよかった。（防災会館）

[大学訪問]

- ・ 学区内がとても広く、案内してくれる大学生は元気がよく、とても明るい印象でよかった。
- ・ 東京の大学自体めったに見学できないので、将来の進路に役に立ったと思う。

### 3 体験活動の実施体制

#### ○ 学校支援委員会

- (1) 生徒部（特別活動係）
- (2) キャリア支援部（進路指導部）
- (3) 人間関係づくり推進プロジェクト（生徒部・保健体育部）
- (4) 学校支援委員会（年2回開催）
  - ・ 地元小中学校長・市教育委員会支所長、地元商工会会長、介護施設関係代表ほか

- ・ 第1回学校支援委員会 平成20年9月19日（水）午後2時から午後4時まで
  - ・ 第2回学校支援委員会 平成21年2月18日（月）午前10時から正午まで
- 所管の生徒部特別活動係を中心に、キャリア支援部、保健体育部、各学年とよく連携をとり、計画を進めていった。

学校支援委員会の構成員は、上記のとおりであり、多くの助言・支援をいただいた。

#### ○ 配慮事項

特に注意をしているのが班編制である。人間関係づくりが苦手な生徒が年々増加してきている中、ひとり班から離れたり、あるいは班から外れたりしないよう、細心の注意を払った。また、校外、あるいは他の市町村に出て行くので、安心安全にも充分注意を払った。ボランティア活動においても傷害保険等にその都度加入して、万が一に備えた。

#### 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

体験活動をしたあとにはレポート・感想文を作成させ、それを教員がまとめ、全教職員に配布する。特にインターンシップは総合的な学習の時間として実施しているのので、年度末に評価している。

体験活動をする場所については、インターンシップの就業場所が広範囲にわたっているのので、特に新着任の教員が場所の事情に疎く、事業所の営業内容や場所などよく研究して指導に当たる必要がある

また、インターンシップが他の中学校と重なったりしたので、事業所とは事前によく問い合わせをし、本校生徒に必要な事業所を確保した。

#### 5 活動の成果と課題

##### ○ 成果

高等学校で高森ピア・セミナーを実施するに当たり、一部検討を加え、内容をより精選して実施したことにより、実施後、生徒はクラスを問わず交流の場面がより多く見られ、それぞれのクラスにおいても積極的な発言・活動をしている。部活動にも多くの生徒が加入し、熱心に活動している。

今年度も学級の中での人間関係の診断（Q-U診断）を、1年次生では10月、2年次生では11月に実施した。1，2年次生ともに本校におけるQ-U検査の特徴は『学級内で意欲的に活動し、楽しく学校生活を送っている。気軽に話のできる先生がいる。悩みを相談できる先生がいる。学習意欲も高く、進路意識も十分ある。』などで概ね良好である。

##### ○ 課題

生徒がさまざまな体験活動で実感したことが、今後の生活でどのように活かせるか、いつまで継続するかなどよく見守る必要がある。幸い「いじめ」や「暴力」など問題行動はこの1年間ほとんどなく、秩序ある学校生活を送れたものと思われる。

しかし、学級生活満足度を見ると、高校1年次生は43%と全国平均を上回っているが、2年次生が27%と全国平均を少し下回っている。この結果をよく分析し、今後の学校生活に生かしていきたい。